

2015年8月2日「自分を低くする者は高くされる」

＜ 聖書箇所 ＞ 「ルカによる福音書 18章 9節～14節」

自分を義人だと自任して他人を見下げている人たちに対して、イエスはまたこの譬をお話しになった。「ふたりの人が祈るために宮に上った。そのひとりパリサイ人であり、もうひとり取税人であった。パリサイ人は立って、ひとりでこう祈った、『神よ、わたしはほかの人たちのような貪欲な者、不正な者、姦淫をする者ではなく、また、この取税人のような人間でもないことを感謝します。わたしは一週に二度断食しており、全収入の十分の一をささげています』。ところが、取税人は遠く離れて立ち、目を天にむけようとしないうで、胸を打ちながら言った、『神様、罪人のわたしをおゆるしてください』と。あなたがたに言うておく。神に義とされて自分の家に帰ったのは、この取税人であって、あのパリサイ人ではなかった。おおよそ、自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるであらう」。

＜ 説教抜粋 ＞ 「自分を低くする者は高くされる」

今日の説教の題名は「自分を低くする者は高くされる」です。今日の聖書箇所の最後の部分に、今日の説教の題名が書かれています。それでは最初の箇所を読みたいと思います。「自分を義人だと自任して他人を見下げている人たちに対して、イエスはまたこの譬をお話しになった。」。

自分を素晴らしい人だと思うことそのものについては全く問題がありません。むしろ、自分のことを誇れることは尊いことです。しかし、もしも、自分を義人だと自任すると同時に、他人を見下げてしまったならば、それは問題です。わたしたちは、ともすれば、相手を下げること、自分自身を高めようとしてしまいます。イエス様の当時、エルサレムの神殿では、多くの人たちが祈りを捧げていました。

パリサイ人らは律法をよく守る生活をしていました。このことについては、確かに誇るべきことでしょう。しかし、その一方では、異邦人や取税人らは裁きの対象だったのです。「ふたりの人が祈るために宮に上った。そのひとりパリサイ人であり、もうひとり取税人であった。」。

ここには二種類の人たちが書かれています。一人がパリサイ人で、もう一人は取税人です。「パリサイ人は立って、ひとりでこう祈った、『神よ、わたしはほかの人たちのような貪欲な者、不正な者、姦淫をする者ではなく、また、この取税人のような人間でもないことを感謝します。わたしは一週に二度断食しており、全収入の十分の一をささげています』。

パリサイ人は神殿の真ん中に立ち、堂々と祈りました。その内容は、自分が取税人のような人でなくて良かったというものでした。一方、「ところが、取税人は遠く離れて立ち、目を天にむけようとしなくて、胸を打ちながら言った、『神様、罪人のわたしをおゆるしてください』とあるように、取税人は、パリサイ人とは全く違う祈りをしました。

取税人は、自分が罪人だと思っていたのです。ですので、彼は、神殿の真ん中に立つことができず、むしろ、神殿の隅っこで、自分の胸を打ちながら、罪のゆるしを乞うたのです。このような対象的な二人に対し、イエス様は、以下のように言葉を続けました。「あなたがたに言うておく。神に義とされて自分の家に帰ったのは、この取税人であって、あのパリサイ人ではなかった。」。

パリサイ人は外面上は立派だったのですが、実際は形だけであり、真に、神様の心を打ったのは、取税人の謙遜な祈りだったのです。人の本質は外面ではなく、むしろその人の内面的なものではないでしょうか。「おおよそ、自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるであろう」。私たちは、謙る気持ちを貴く思うべきなのです。